

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2025 年 11 月発行～

ひびきジャーナル



〒169-0073 東京都新宿区百人町 4-4-16-1218 Tel:03-5389-8449
Fax:03-5389-8449 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2025 年 11 月 10 日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.85



秋の深まりとともに日脚も段々と短くなってまいりました。皆様お健やかに
お過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、前回の会報で、コンサートの次回開催は 12 月とお知らせいたしましたが、
出演者のスケジュールが調整できず、12 月の開催は中止となりました。次回
開催の予定は 2026 年 5 月初旬になる予定です。詳細は決定次第お知らせ申し
上げます。誠に申し訳ございませんでした。よろしくお願い申し上げます。

初代代表、玉木宏樹は映画や TV ドラマ等で作曲活動を開始。作品としては、
MIDI 出現以前に 7 台のシンセサイザーとフルオーケストラのための交響曲「雲
井時鳥国」をライブ録音し、TV では「大江戸捜査網」「おていちゃん」「怪奇大
作戦」他多数。CM1500 曲。演奏面では、「題名のない音楽会」に数回出演。永六
輔氏の「夢でワイドショー」にゲスト出演他。1997 年 NHK 夏休み特番「ノッポ
さんのパソコンと遊ぼう」でパソコン博士として出演。コンピュータ音楽にも
精通。純正律音楽 CD では「光の国へ」シリーズ、「響き」シリーズ、「天の川」
「源氏物語」「ふるさと」「波間のきらめき」等、その他 CD 多数あり。著書には
「音の後進国日本」「純正律は世界を救う」「音楽革命論」「クラシック埋蔵金」
「贋作・盗作 音楽夜話」等があります。

今年の日本音楽コンクール

洗足学園音楽大学客員教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表水野佐知香

すっかり秋になり、急にコートが必要な季節になりました。紅葉も急ピッチに進んでいるようです。風邪を引いている方も多くいらっしゃるようです。皆様、お元気でいらっしゃいますか？

先日は、音の魔術師と呼ばれる洗足学園音楽大学客員教授の伊藤圭一氏のスタジオに、三宅美子さん、吉原佐知子さん、お三味線の中香里さんと4人で模擬録音をしてきました。伊藤氏のスタジオは素晴らしを通り越してすごい!! 今どこにも手に入らないマイク、スピーカーなどがたくさん。

サロンも兼ねたスタジオは、そこでコンサートもできますし、奥のスタジオはどんな音でも作れるような素晴らしい機材、機材、機材! ここでたくさんのアーティストの録音、撮影もして、たくさんのアーティストを売り出したこともお聞きしました。私たちもご縁がありレコーディングをこちらでさせていただけること、とても楽しみです。まずは、源氏物語を!!と予定しています。

そして、三宅さんとは、432 ヘルツで玉木さんの曲を演奏してみよう!と盛り上がり、来春くらいから小さい会場で、癒しのコンサートを企画しようと考えています。慌ただしいこの世の中、私たちも癒されながら演奏したいと考えています。

さて、毎回、若者の素晴らしさをお伝えしていますが、今年の日本音楽コンクールの1位から3位は全て高校生でした。チャイコフスキー、シベリウス、バルトークの協奏曲で、日本の弦楽器の将来が明るくなるようでしたし、どんな演奏家になるかワクワクしています。ちなみに、私が育てた、「荻原緋奈乃さん」は3位でした。また中学2年生の「前田早紀ちゃん」もすごいです。東日本1位は3回目ですが、今年こそ全国に!と楽しみです。

コンクールばかりが大切ではないですが、コンクールを通して、目標を定めて練習をすることは、スキルを身につけるためにもとても勉強になります。ただ世の中は、コンクールや出身校ではなく、本当に優秀な方々がチャンスを見つけて素晴らしいご活躍をされています。年齢を重ねて、たくさんの経験をされて20代後半から30歳くらいでコンクールを制覇するくらい、じっくりと焦らず勉強してほしいと最近は思います。ショパンコンクールで4位を取られた桑原さんも30歳でした。これからが楽しみな日本の音楽界です。今、若者からは目が離せません♥

さあ! 60歳から1歳ずつ若くなるつもりの私も、若者のようなわけにはいきませんが、リハビリをしながら、精進していく所存です♥

ムッシュ黒木の純正律講座 第 84 時限目
平均律普及の思想的背景について(73)
純正律音楽研究会理事 黒木朋興

『ナチスは「良いこと」もしたのか?』という本が出版され、この「良いこと」をめぐって著者の先生がX(旧 Twitter)で論戦を繰り広げている。先生方の努力も虚しく日本ではナチスを絶対悪という考えは理解されにくい。人間である以上、完璧であることはあり得ない、だから人間が絶対善の立場につくことはない、ところが絶対悪を設定しようとそれを叩くことが絶対善となってしまう新たにファシズムを生み出してしまうのではないか、とするのが理性的だとか考える人が多いのだろう。ユダヤ人虐殺という蛮行を行ったナチスのしたことであっても、良いことと悪いことを冷静に分析し整理することが必要だというわけだ。

しかし、欧米ではナチスは絶対悪と見做される。異論は許されない。

最初に私の考えを言っておくと、ナチスが良いことをしたとしてもそれはそれで構わないと思う。ショアーというユダヤ人絶命計画を実行したナチスの罪は、良いことをしていてもしていなくても、まったく減じるものではないからである。ナチスはショアーを人類史上初めて行った。それだけで十分だろう。

ナチス＝絶対悪ということが日本では理解されにくいのは、キリスト教、ユダヤ教やイスラーム教などの一神教の文化土壌が日本にはあまり浸透していないというのが大きな理由の一つだと思われる。欧米では、学問体系はキリスト教の神学に由来しており、リベラルを自認し民主主義の理念を掲げて神の支配を否定する学者や政治家でさえ、その体系から逃れることはまず不可能だ。対して日本では、欧米の民主主義思想の影響の下、リベラルだとか左翼を自認するインテリは少なくないが、彼らの中でさえ神学の知識があるものは多いとは言えないのが現状である。

残念なことに欧米のリベラルや左翼を自認するインテリは自らの理性の体系がキリスト教神学に依っているという事実を認めようとししない。人類は、民主主義を洗練させ神中心の社会から人間中心の社会を発展させたのであり、民主主義者である我々は神の支配から脱却したのだ、と考えるのだろう。しかし、神からの脱却を謳う時点で否定すべき対象としての神の存在を認めてしまうわけであり、神学の影響から完全に自由であることは不可能だ。そもそも、民主主義の根本理念である人権とは、元々、神が人間に与えた権利であることを確認しておこう。

対して、日本には神が世界を創造したという信仰は存在しない。よって神から脱却する必要は最初からないということになる。このことをキリスト教の信者に理解してもらうことは極端に難しい。なぜなら信徒にとって、信者だけではなく非信者を含めこの世界全体を生み出したのが神なのであり、この世界の中に生きる以上、多神教などの他の宗教も含めたすべてのものが神の支配下に入るからである。神がいることもいないことも証明できない上に、我々は世界

の創造者を神とする信仰とそれに基づく文化を共有していない、というくらいのことしか言えない、それを尊重してくれる信徒もいれば、してくれない信徒もいるといったところが現状だ。

今まで私が出会った欧米人のインテリや研究者の中で、この神の体系から免れている人間は一人もいなかった。基本的に左翼は自らが神の体系の範疇にいることを否定したが、欧米で正統な高等教育を受けている以上、その枠組みから自由になることは不可能である。なので、自らが負っている論理の枠組みを意識できていないリベラルは厄介であると言える。さらに厄介なのが、そのような欧米のインテリに感化されて日本で欧米の最先端思想の伝道者を自認して教育研究に励んでいる人々ということになる。

三味線と私の変なであい

純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

私は 20 代の後半、渋谷のジャンジャンでヴァイオリンと三味線を持ち替えたりして、インチキ遊び弾きをやっていたことがある。左手は、ギターとチェロを少しやったことがあるので、指位置にそれほど違和感はないが問題は撥だ。どれだけやってもサマにならないので、専らピックでやっていた。

話は変わるが、私の結婚式の披露宴の写真には、西潟さんが仲人席に座っている。それほど親しかったから、西潟さんから三味線を習ったのかというと、そんなことは全くなかったと思う。実は私の三味線の師匠は、あの豊文姉さんなのだ。私が山本直純のアシスタントをやっていたとき、直純さんは三味線が好きでいつも豊文さんがきていた。面白い人で、譜面は殆ど読めなかったのに「玉ちゃん、玉ちゃん」と言って私を横に座らせ、私がメロディを歌って、指のポジションを譜面に書いて、懸命に演奏するのだ。右手はともかく、左手の勘所は分かるので豊文さんは私を守り神のように拘束する始末。そして直純さんが大声でコードネームを叫んだり、変えたりしているのを見て、あれで和音が分かるの？などと好奇心の旺盛な人で、ある日、また私が守り神をしていると、ふと「玉ちゃん、アナタ三味線やりなさい、うまくなるわよ」などとおだてる。そして「私が教えるから」などと思ひもかけないことを言うので、無視しようとする、と「私がちゃんと教えるから、レッスン料もいらない。そのかわり、アナタは私にコードネームを教えなさい」と強烈なカマシ。驚いているスキにレッスンの日時まで決められてしまった。

決められた日にイヤイヤ出かけると、外出時にビシッと和服を決めている豊文さんのお部屋は猫が王様の物凄い散らかりよう。どうぞ、と言われても座る所もない。そんな中で、三味線のかまえ方、撥の持ち方をビシビシと説明され「ハイ」と言われたので、音を出すといきなり、右手を撥でビシッと叩かれ、それじゃ音にならない、と何度も叱られる。日頃はスタジオで私が文句ばかり言っているのもその仕返し、か、と思っていると、30 分くらいたって「はい交替」

と言って、コードネームを教えろという。小振りの三味線で8本調子だから「C」のドミソを押さえられない。私も4本調子にしないとダメだという知恵もなかったのも、全く四苦八苦だった。

そんなことがあった後、私も直純さんの所を卒業、10年以上たったある日、前夜飲みすぎて二日酔い気味の所へインペク(人集め業者)の女性マネージャーから、必死の表情の声の電話がきた。「玉ちゃん、三味線持ってるでしょう」「そんなもの、皮が破けてとっくの昔に捨てたよ」「えー！でも今でも弾けるでしょう、すぐに東芝のスタジオへ来てよ」「なんだよいきなり！」と言うと、突然電話の主が変わり「私の稽古三味線貸すから、すぐに来て」と何と豊文さん。「師匠がいるのにどうしたの」「私にはできないけど、お玉ちゃんならできるわよ、とにかく大急ぎでかけつけて」というわけで、とりあえずはスタジオに到着し、すぐに三味線を押しつけられ何が何だか分からないままスタジオに入ると、20人以上のミュージシャンが大拍手で私を迎える。席に座り、譜面をみると何と、津軽三味線アドリブと書いてあって、コードネームしかない。こりゃ豊文さんが悲鳴をあげるのも無理もないが、私として、津軽なんてやったことがない。しかし、クソ度胸を発揮して、津軽の雰囲気を出して、無茶苦茶やったのにも拘わらず、大好評で終わった。

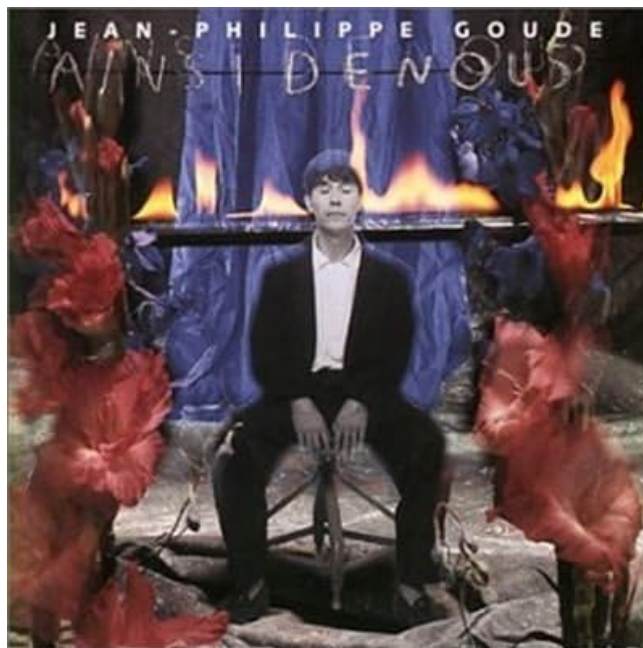
こんな話は遠い過去で、今は西潟さんからビシビシと指導を受け、新しい三味線音楽を目指している。サワリの倍音はとても魅力的だ。

CD レビュー純正茶寮

Jean-Philippe Goude

『Ainsi De Nous』

純正律音楽研究会理事 黒木朋興



Jean-Philippe Goude

『Ainsi De Nous』

メーカー : HOPI MESA - Francia
EAN : 3347128525044
レーベル : HOPI MESA - Francia
ASIN : B00003IQVC

1995年に発表された Jean-Philippe Goude のソロアルバム。

彼はてっきり MAGMA の旧メンバーと思っていた。ところが MAGMA のベースを担当していた Bernard Paganotti 率いる WEIDORJE に参加していたミュージシャンであり、MAGMA への参加はないらしい。音楽一家の出身で、パリのコンセルヴァトワールの出身とある。

大学院生の頃、MAGMA 関係のミュージシャンということで硬派なジャズロックを期待して購入したが、穏やかな室内楽のアルバムで少し驚いた。当時は結構気に入って聴きまくった。確か、民放のレストランを舞台にしたドラマの挿入歌としても使われていた記憶がある。

実はこの CD は僕がフランスに住んでいる間に父に捨てられ手元に無かったのだが、突然どうしても聴きたくなくて中古で購入。彼はピアニストであるので、別に純正律音楽研究会のこのページに紹介するつもりはなかったのだが、改めて聴いてみるとピアノはサポートに周り控えめで、クラリネット、バスーン、ヴァイオリンやチェロなどの響きが綺麗に仕上がっている。やっぱり木管の音はよいなあ、と思いながら、大学院生時代を思い出しながら聴いている。もし、中古市場で見つけた際はぜひ購入を検討されたし。

ヒンドウ教について

NPO 法人 純正律音楽研究会
正会員 弁護士 齋藤昌男

第1, ヒンドウ教とは何か

ヒンドウ教はインドやネパールなどの南アジア諸国を中心に、世界の約9億人の人々が信奉する宗教であります。インド人の中にはイスラム教、ジャイナ教、キリスト教など、他の宗教を信じている人も多いといわれています。ヒンドウ教は一つの宗教とすると同時に、インド社会に深く根を下ろした複雑な社会制度と考えることもできるものである。インドにはカーストと言った社会階級制とすることはよく知られているとおりであります。

第2. アーリア人 (Aryan)

アーリア人とはインド・ヨーロッパ語族に属する先史時代の民族で、特に紀元前2000年ごろからインドやイランに南下して定住した人たちを言います。アーリアとは「清い」「高貴な」を意味するサンスクリット語ですが、とくにインド・イラン語族派に属する自らを「アーリア」と呼んでいました。(世界の宗教を読む事典422ページ)

第3. カースト制度 (Caste System)

紀元前2000年ごろの南アジア中部の広大な平原遊牧民がさまざまな部族集団を作って住んでいました。アーリア人は南方のインドに向かって移動して、インド北部を征服してゆきました。当時のアーリア人の中には社会階級制度が出来上がっており、これがインドの先住民のあいだにも強いられるようになりました。理論上は次の4つのカースト（4種姓）のみ存在することによっています。それは1. バラモン、すなわち司祭者、宗教教師 2. クシャトリア、王族すなわち王、武士、貴族、 3. ヴァイシャ、庶民、すなわち貿易業者、商人、農民その他の職業の者、 4. シュードラ、隷民すなわち農奴、召使いである。カースト制度の人種の違いに起源をもつものであるとする説は、カーストの皮膚の色と違いに起源があったと推測される関連性を根拠にしている。

第4. インド哲学の目的

以下、赤松明彦博士 「岩波新書インド哲学10講」（5ページ）からの引用。

ヴェーダ

・
・
ウパニシャド

・
・
・

文法学派

ヴェーダの流れをくむ
正統六学派

サーンキヤ
ヨーガ
ミーマーンサ
ヴェーダーンタ
ニヤーヤ
ヴァイシェシカ

仏教
ジャイナ教

唯物論（ローカーヤタ派）

ヒンドゥー教
(シヴァ教・ヴィシュヌ教)

同ページ、哲学の目的が書かれている

1. 「存在とはなにか」そして「それによって理解される世界とはどのようなものであるのか」
2. 「この世界で人はいかに正しく生きるべきか」
インドの思想家、唯物論者を別にして、すべての学問の最終目的としては「解脱」——人生の苦＝「輪廻」からの解放——を説いている。

第5. ヒンドゥ教時代区分

立川武蔵著「ヒンドゥー教の歴史」11ページより。

インド文化史は次のような6期に分けることができる。

- 第1期 インダス文明の時代 紀元前2500～前1500年
- 第2期 ヴェーダの宗教の時代（バラモン教の時代）紀元前1500～前500年
- 第3期 仏教などの非アーリヤ系文化の時代 紀元前500～紀元650年
- 第4期 ヒンドゥー教興隆の時代 紀元650～1200年
- 第5期 イスラーム教支配下のヒンドゥー教の時代 紀元1200～1850年
- 第6期 ヒンドゥー教復興の時代 1850年以降

第6．インド文化事典（丸善出版）43ページ19行以下

「経済関係や儀礼関係を取り結んだサブ・ジャーティ（ジャーティの下位部分）が重要な機能を果たしている。さらにヴァルナの外部、つまり「アウト・カースト（不可解民）」とされてきた集団は、他のジャーティや支配カーストの形成する社会に深く埋め込まれた存在であり、具体的には革細工や動物の死体処理、清掃業や床屋、芸能活動など、社会において必要不可欠な分業を担っており、彼らの存在がなければ遂行できない祭礼や儀式も多い。」他の書籍によれば、その数300種類と言われている。

第7．ヒンドゥー教の教理

1．4住期

4住期（アーシュラマ）とは、ヒンドゥー教独特の概念で、最終目標の解脱に向かう人生を4つの住期に分けたものです。ただし、4住期は、上位ヴァルナのバラモン、クシャトリア、ヴァイシャにのみ適用され、シュードラ及び女性には適用されません。

○受胎から入門式（8～12才）までは、4住期に入らず、この間は一人前の人間とはみなされません。

（1）学生期

ヒンドゥー教の男子たるものは、学生となって、聖なる伝統と聖典を学ぶこととされてきました。そこで、まず成人式を終えてから家庭に入るまでの時期に、ヴェーダを学習する大きな目的があります。

（2）家住期

家の暮らしを営む時期であり、結婚して子供をもうけ、家長として経済活動に勤しむ時期であります。

（3）林住期

世俗を離れて、森での生活に移行する時期であります。

（4）遊行期

何も持たず、ただ乞食だけによって生きながら、魂の解放を求めて遍歴する時期であります。「ヒンドゥー教社会では、こういう遊行者は、今なお高く評価され、特別の尊敬と支援を受けるにふさわしいとされている」（M・B・ワング著、山口泰司訳、ヒンドゥー教、154ページ）そうであります。さて、この住期はアーシュラマと呼ばれ、アーシュラマと前記の4姓（ヴァルナ）ごとに定められた責務や生活規定をダルマ（法乃至生き方の規範）

といい、それを遵守することをも同じくダルマと称しています。このダルマにカーマ（性愛、優美）とアルタ（実利の追求）を加えたものを「トリ・ヴァルガ」と呼び、これらの3つをヒンドゥー教では人生の目標としています。（山下博司・岡光信子共著「新版インドを知る事典」、東京堂出版発行、37 ページ）。

参考文献

1. 岩波新書 ヒンドゥー教 10 講
2. 岩波新書 インド哲学 10 講
3. 講談社現代新書 ヒンドゥー教 インド 3000 年の生き方・考え方
4. 山川出版社 ヒンドゥー教の歴史（宗教世界史 2）
5. 青土社 ヒンドゥー教（シリーズ現代の宗教）
6. 丸善出版 インド文化事典
7. 講談社現代新書 世界の宗教を読む事典

（完）



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。
〒168-0072

東京都新宿区百人町 4-4-16-1218 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5389-8449 FAX：03-5389-8449

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp <http://just-int.com/>

2025 年 11 月 10 日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫

***純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。**

コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。

<http://just-int.com/>